

第5回

がん緩和ケアに関する 国際会議

完全同時通訳

2026.7.10 Fri.-11 Sat.

参加事前登録・一般演題登録

2025年2月より募集開始

会場

札幌パークホテル

札幌市中央区南10条西3丁目

参加費

医師 25,000円 事前登録

35,000円(当日参加)

医師以外 15,000円 事前登録

20,000円(当日参加)

定員

700名

※定員になり次第、登録受付を終了させていただきます。

事務局

医療法人 東札幌病院
〒003-8585 北海道札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号
電話 011-812-2311(代表) FAX 011-823-9552
E-mail: office@sapporoconference.com
http://www.sapporoconference.com



ホームページ

大会長／小船 雅義(札幌医科大学)

主催／医療法人東札幌病院

2026.7.10 Fri.

シンポジウム1
08:00-12:00

がん疼痛に対するオピオイド：新たな科学とベストプラクティス

座長：David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

パネル 1

序論：オピオイド応答の新たな科学

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

オピオイド応答のゲノム-ワイド関連解析：がん疼痛管理への意義

西澤 大輔 (東京都医学総合研究所)

がん疼痛に対するオピオイド療法：薬理遺伝学的解析のインパクト

D.Max Smith (Georgetown University, USA)

がん疼痛においての神経炎症：

オピオイド療法における腫瘍微小環境の役割

Angela Santoni (Sapienza University of Rome, Italy)

Edoardo Arcuri (Regina Elena Cancer Institute of Rome, Italy)

パネル 2

序論：がん疼痛に対するオピオイド使用の臨床アップデート

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

がん疼痛治療におけるブプレノルフィンとメサドン

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

オピオイドが免疫応答と内分泌機能に与える影響

Jason Boland (Hull York Medical School, UK)

オピオイドの(脳科学的な)強化(Reinforcement)／

報酬(Reward)に与える影響：乱用のリスクとその緩和戦略

Joseph A. Arthur (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー1
12:00-13:00

医療、ナチズム、及びホロコーストに関するランセット委員会：

歴史的エビデンス、今日における意義、明日への教訓

Herwig Czech (Medical University of Vienna, Austria)

座長：Declan Walsh (Levine Cancer Institute, USA)

シンポジウム2
13:00-17:00

がん患者への個別化された緩和ケアとサポータティブ・ケアの時代： 進歩と革新

座 長： **Areej El-Jawahri** (Massachusetts General Hospital, USA)

中川 俊一 (Columbia University, USA)

※本セッションでは、終末期における化学療法、放射線治療、免疫療法、標的療法、緩和手術などの緩和治療の妥当性について議論する

進行がん患者に対する緩和ケアの役割

Jennifer Temel (Massachusetts General Hospital, USA)

血液悪性腫瘍患者に対する緩和ケア：現在の動向と将来の方向性

Areej El-Jawahri (Massachusetts General Hospital, USA)

新規治療法と個別化医療の時代における緩和ケア

Jessica Bauman (Fox Chase Cancer Center, USA)

ギャップを埋める：外科の質向上のための緩和ケアの活用

Ana Berlin (Columbia University, USA)

イブニングセミナー
17:00-18:00

未来のケアプランニング - 緩和ケア患者のためのより良いプランニングに関するヨーロッパの視点

Mark Taubert (Cardiff University School of Medicine, UK / ヨーロッパ緩和ケア学会 副理事長)

座長：高田 弘一 (札幌医科大学)

2026.7.11 Sat.

シンポジウム3
8:00-12:00

緩和ケアにおける患者と臨床医の出会いに対する精神力動的視点

座 長： **Friedrich Stiefel** (University of Lausanne, Switzerland)

Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, France)

緩和ケアにおける患者と臨床医の出会いに対する精神力動的視点の現状
精神力動的心理学により形成される臨床医と患者間のコミュニケーションの違いを理解する

Friedrich Stiefel (University of Lausanne, Switzerland)

精神分析理論の基本的諸仮定とそれらの緩和ケアへの関連性
緩和ケアに適用される精神分析理論の臨床的視点

Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, France)

精神力動的アプローチが医学と緩和ケアにどのように貢献するか？
初期の精神分析からその後の医療分野への適用までの歴史的な道のり

James Levenson (Virginia Commonwealth University, USA)

精神療法的アプローチと緩和ケアはどのようにがん医療に統合され得るか？
精神分析的ケアと緩和ケアの統合がもたらす臨床的付加価値について

Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)

「内側」からの視点：緩和ケアにおける精神腫瘍医としての働き方
精神力動的指向を持つ精神科医による患者と臨床家へのアプローチ

清水 研 (がん研究会有明病院)

ランチョンセミナー 2

12:00-13:00

比較文化学におけるスピリチュアリティ、スピリチュアル・ケア

Karen Steinhauser (Duke University, USA)

座長：小西 達也(武蔵野大学)

シンポジウム4

13:00-16:30

幫助死(安楽死、VAD、MAID)と緩和ケア：表裏一体か？

座長：**Luc Deliens** (Vrije Universiteit Brussel & Ghent University, Belgium)

David Currow (University of Wollongong, Australia)

第1部 世界における幫助死の実践と経験

世界における幫助死法制と実践の進展

Luc Deliens (Vrije Universiteit Brussel & Ghent University, Belgium)

幫助死が長期にわたり合法とされている国々で得られた
緩和ケアと幫助死の関係に関する実証的エビデンス

James Downar (University of Ottawa, Canada)

ビクトリア州での合法化以来、オーストラリア各州において、
自発的幫助死に関する法律に緩和ケアの臨床医はどのように対応してきたか？

David Currow (University of Wollongong, Australia)

スイスの幫助死制度における緩和ケア医の経験

Claudia Gamondi (University of Lausanne, Switzerland)

第2部 映画上映

“The Last Flight Home”

監督：**Ondi Timoner**

1982年7月、イーライ・ティモナーは突然の脳卒中で左半身不随となり、53歳でエア・フロリダのCEOを辞任せざるを得なくなった。当時、彼は1日2マイルを走り、テニスをし、健康的な食生活を維持していたのだが、その後は、歩行が不安定なまま生涯を終えた。

イーライ・ティモナーは2021年1月、呼吸困難で入院。我々は、イーライ・ティモナーの最期の日々、素晴らしい功績、悲劇的な喪失、そして何よりも永続的な愛に満ちた比類なき人生を目の当たりにする。「LAST FLIGHT HOME」は、彼の最後の旅路を、彼の勇気ある家族が最後まで見守るという、感動的な社会体験を描いた作品である。

この映画は、米国ユタ州パークシティで開催された2022年サンダンス映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した。

※この映画の予告編はYouTubeで見ることができる。Luc Deliensがアメリカの学会でこの映画全編をレビューしたところ、幫助死における緩和ケアの重要性と複雑さを示す非常によくできた作品であった。プロデューサーのMark Barger(New York city, USA)は、約1時間30分のドキュメンタリーを、日本語字幕を含めて45分に短縮することに同意した。